

“食と農と環境を考える県民会議” 通信 No.12

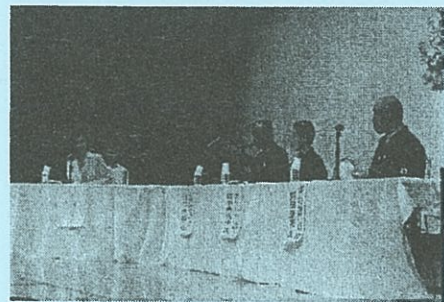
皆様いかがお過ごしでしょうか？ 平成15年度最後の「県民会議通信」をお届けします。今回は、当県民会議が開催した「第2回フォーラム」、平成15年度の事業実績概要まとめ、「食と農のサポーター料理教室および一年を振り返って」等です。情報満載ですので、じっくりお読み下さい！

第2回フォーラム開催

3月18日(木)、近江八幡市の男女共同参画センターにおいて、第2回フォーラム「聞いて！見て！食べて！！滋賀の味～試食交流会」を開催しました。

キャスターの三宅道子さんの進行で、この日の試食品出品者のうち3名の方が登壇、それぞれの取り組みや生産物に対する思い等を話していただきました。一般に思われる困難や苦勞を苦勞と思わない、親しみやすい語り口に、参加者は「こういう人たちの作ったものを食べてみたい」と感じられたようで、その後の試食交流会は大盛況！32ものいずれも劣らぬ県産品（これらは全県の産品のほんの一部なんですよ！）の生産者と対面で話し込む姿が多く見られ、「滋賀県にこんなに良い特産がたくさんあるとは知らなかった」「今度は買いに訪ねてみたい」といった感想が寄せられました。やはり話を聞いて食べてみると安心、感動があったようです。

<当日の様子は、NHKやBBC等でも放映されました！ご覧になられたでしょうか？>



<当日出品物の紹介—出品者からお便り—>

【まるごとつくつく、まるごと野菜】

安土町生活改善グループ加工部員の畑で栽培した野菜を80%ほど入れて、野菜せんべいを作っています。野菜のペーストにつなぎにでんぷんを入れ、塩、砂糖、油でヘルシーなスナック仕立てに焼き上げました。食べるとお口の中に玉ねぎ、さつまいもなどの味が広がり、食べても食べても飽きのこない魅力です。種類は他にグリーンピース、じゃがいも、かぼちゃ、にんじん、春菊、イチゴ、しいたけ、黒豆があり、野菜で彩っているので「まるごと野菜」と名付けました。「まるごとつくつく」には、滋賀羽二重糯を使用。焼き上がりの歯ざわり・香ばしさにこだわっており、黒豆入り・ゆかり入り・みかん入りで、油はいっさい使わずヘルシーに焼き上げています。企業に負けない加工食品と表彰されたのは、私たちの家で作った自慢の野菜があるからできたんだなあと思っています。安全・安心をモットーに、お客様に愛情いっぱい、心のこもった製品をこれからも作っていきたくと思っています。

(連絡先 TEL・FAX 0748-46-4288)

平成15年度「県民会議事業実績概要」

(1) フォーラムの開催

① 食材と栄養と健康を考えるフォーラム

平成15年7月24日(木) 栗東市

- ・「滋賀県環境こだわり農業推進条例」
- ・「あなたのダイエットデザイン」【平野美由紀氏】

② 「聞いて！見て！食べて！！滋賀の味～試食交流会」(左記の通り)

(2) セミナーの開催

① 第1回セミナー「『目からウロコ』の野菜の知識・育て方、お茶の味比べ」

平成15年6月18日(水) 近江八幡市

- ・「滋賀県農業の現状と県民会議の今年度の事業計画」
- ・「野菜の雑学、育て方・食べ方～家庭菜園への応用」
- ・「お茶の知識／開茶会／お茶の淹れ方」【茶業青年団 団長 青木孝徳氏】

② 第2回セミナー「会員現地見学会」

平成15年10月4日(土) 八日市市・愛東町・安土町、他

- ・環境こだわり農産物栽培ほ場(水稻、トマト、プチトマト)
- ・農業設見学、県農業総合センターふれあい農業デー見学

③ 第3回セミナー「三方よしの農産物直売」

平成15年11月5日(水) 米原町

- ・「愛される直売所、成功する直売ビジネス」【(株)ベネット 青木隆夫氏】
- ・「生産者・消費者・環境から見た“よい直売所”」(パネリスト 伊藤氏)

【パネラー：直売所経営者、生産者、平成15年度食と農のサポーター】



(3) 食と農のサポーター養成事業

① 委嘱式

平成15年5月29日(木) 大津市

② 現地見学会「環境こだわり農産物ほ場見学会」

平成15年8月29日(金) 愛東町

③ 県農業施設見学会(内容は上記参照、会員と合同)

平成15年10月4日(土) 八日市市・愛東町・安土町、他

④ 自主企画「地場産農産物見学会と体験交流会」

平成15年11月19日(水) 伊吹町

⑤ 体験交流会「わら細工講習会」

平成15年12月1日(月) 守山市

⑥ 自主企画「環境こだわり農産物見学会と食の水路探求会」

平成16年3月2日(火) 近江八幡市、能登川町

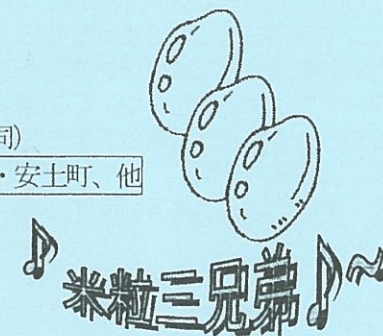
⑦ 伝統食料理教室「料理教室および一年を振り返って」

平成16年3月8日(月) 大津市

(4) 「来て！見て！食べて！！滋賀の味」vol.2の作製

(5) オリジナル啓発資料・資料の作成、提供、その他各種情報提供

(6) “食と農と環境を考える県民会議”通信(年4回)の発行



「来て！見て！食べて！！滋賀の味」Vol.2

大変お待たせいたしました！

「来て！見て！食べて！！滋賀の味 Vol.2」を同封いたします。調査票を出して下さった方、そうでない方も、ごいそのお店はありますか？ぜひ読んでお訪ねいただき、滋賀県のお店を応援して下さい☆☆☆

また、この冊子は会員以外の方にもお1人様1冊で配布します。ご希望の方は下記まで、180円分の郵便切手を同封の上、送付いただきましたら、直ぐに郵送させていただきます。

なお、新規会員の方には無料で送付いたしますので、周りの方にも、この冊子を見本に「食と農と環境を考える県民会議」を宣伝していただいて、一緒に会員のお仲間になっていただければ幸いです。会費(入会金、年会費)は無料です。この冊子の他にも、これからいろんな情報もお届けしますので、絶対お得ですよ～！！

<会員の皆様へ…事務局より「後日談」とメッセージ>

前号で、「お客様の声」として「環境こだわり農産物を扱って下さい！」と投書して下さった会員さんの話を掲載し、その後も同様の活動をして下さっている方のお話を聞いてとても心強く思っています。そこでもう1歩、お願いしたいことがあるのです…それは、「サンクスメール攻勢」(!!)です。他国で別なことについて行われた方法ですが、応用がきくと思います。何かお店で「あっ、前より良くなった！」ことがあったら、「嬉しいです」「こういうことを待ってました！」「どんどん進めて下さい」と手紙を書くのです。しかも仲間みんなで！新しいことに取り組む側は、「本当に必要なのだろうか」「これで良かったのかな」と不安に思います。そのことに対して喜びの声が届けば、担当者やお店はもっと頑張ろうと思うし、上司にも顔が立つというものです。たくさん寄せられれば、多数意見としてそれからのもっと進んだ展開も期待されます。もちろん、生産者の人にも同様、「あなたの作った〇〇、美味しかった！」等の御感想を伝えていただければ！『北風と太陽』ではないですが、ほめることは子どもの教育にも、そして大人にとっても大きなポイントですよ。環境こだわり農産物も、そうやって、皆様に育てていただきたいと思えます。ちょっとでも良くなったことに対して励ましの声が届かなかっただら、しょげてしまって、やめたり後退したりするかもしれません？愛は惜しみなく注ぎましょう！！

(まだまだ、裏面へ続きます！)→

発行：食と農と環境を考える県民会議 事務局

〒520-8577 大津市京町四丁目1-1(県庁環境こだわり農業課内)

TEL 077-528-3892 / FAX 077-528-4881

E-mail gb00@pref.shiga.jp

皆様のご意見・ご感想をお寄せ下さい！お待ちしております！！



花き品評会・フローリスト・フラワー・コンテスト に審査員として参加

去る2月21日(土)にアルプラザ草津において、『平成15年度滋賀県花き品評会』および『第23回滋賀県フローリスト・フラワー・コンテスト』が開催されました。(※フローリスト:花を生ける人)

今回、果樹品評会と同様に開催事務局から消費者代表の審査員を食と農のサポーターにとお願いがあり、次の2名のサポーターの方に参加していただきましたので、その感想等をご紹介します。

花き品評会

岡田節子さん(草津市)

我が町、草津での「花き品評会」にサポーターとして参加させていただくことになり、日が近づくにつれ、専門的な知識が全くなく、不安が頂点に達しました。

審査は、どの品評会でも同じですが、その道のプロの方が一堂に集まられているので、「きれい」、「好き」では済まされず面食らいしましたが、消費者の立場で「どの花が欲しいですか」、「買いますか」と、その観点から答えてくださいとの事で、「すー」と肩の荷が降り、楽しんで一緒にできました。

その折に、花の色、葉の勢い、莖の状態、嗜好の変化等々を教えてください、喜んでおります。

どの花も「オンリーワン」として、誇らしげに並んでいると、甲乙つけがたく申し訳ない気持ちでした。最後は私は生産者の立場(農家)ですので、ご苦労が伝わってきて、どの花にも立派に育ってくれてありがとうと感謝を言いました。

サポーターのお二人には、それぞれに審査員として参加していただきました。また、ご感想やご意見については、開催事務局である「花の国づくり滋賀県協議会事務局」へ、今後の県内における花の振興の参考にお渡ししようと考えています。

今回、審査に参加していただいた方は二人のみですが、他の皆さんも知らず知らずの内に審査をしていることはないでしょうか。なぜなら、消費者の方々は農産物等をお店で購入するという時に、「どれにしようかな?」と多くの物の中から購入したい物を選んでいきます。つまり、それは知らず知らずのうちに審査しているとも言えるのではないのでしょうか。審査で選ばれることは名誉なことかもしれませんが、実際に購入されるのは消費者の皆さんです。そう、会員の皆さんを含めた消費者の方に食・農・環境を良くも悪くもするのにかかっているのです。もちろん、知識を知ってもらうのもそうです。

フローリスト・フラワー・コンテスト

菅原蓉子さん(甲西町)

審査員として参加させていただきましたが、自分で考えていたよりも、大変なお仕事でした。

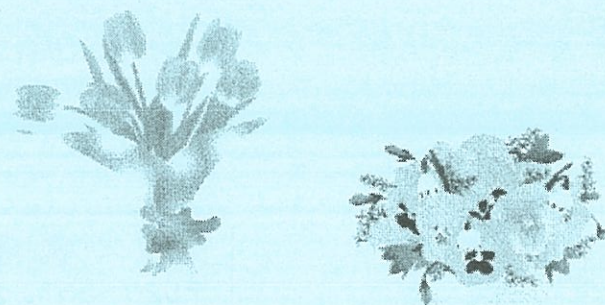
「花き品評会」の方は専門家の方々は何人も参加されていて、評価の仕方はそれなりに良かったのではないかと思います。「フローリスト・フラワー・コンテスト」の方は、審査を受ける側がとてもお気の毒に思いました。作品を置く場所のゆとりがなかった事、フラワーデザインに対する知識がある方が審査する側に少なかった事があります。

また、売るためだけの評価では花は使われなと思います。高価な花が売れたら良いのではなくて、誰でも楽しめる様なアレンジメントフラワーから難しいフラワーデザインまで(生花をたくさん学ぶために使いますので)、県内のフラワーデザイナーを集めて各教室の生徒さん達にもこのようなイベントに参加してもらい、各先生方に審査を御願いしたら、県内の花のイベントの参加者の幅が広がり、花屋さん売るためだけの花ではなく、個人の花の利用者は、もっと増える事だろうと私は思います。

滋賀県は自然環境のすばらしい所ですから、フラワーデザイン協会など利用して花の楽しみ方など広めて行けたら、もっともっと滋賀県の花も農作物も県外に出す事ができるのではないかと私は考えます。

形だけの評価の仕方は、フローリストの育成にならないと思うし、花を売るためには使ってもらい、知ってもらう方法も考えてみてはいかがでしょうか。県内のフラワーデザイナーの方々に、このようなイベントを知ってもらって集まってもらう事も花に対する広がりを見せると思います。

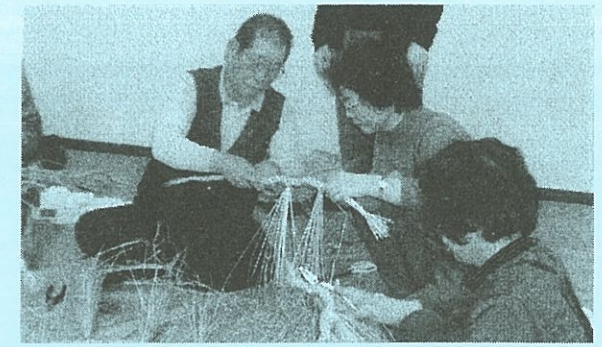
私自身ももう一度、学びたいと考えています。ありがとうございました。



わら細工教室

日時 12月1日(月) 場所 守山市民ホール

食べるお米だけでなく、稲そのものに親しんでもらおうと、「わら細工」の伝統工芸技術を守り続けておられる湖南地域の「農の匠」の方、7名を講師にお迎えし、講習を受けました。参加者らは、農の匠の長年の技術には、目を見張るものがあり、機械産業が著しい現代に人の手で作る職人の技に感心されていました。



▲農の匠からわら細工の手ほどきを受けるサポーターら

【食と農のサポーター自主企画】 環境こだわり農産物見学会と食の水路探究会

去る3月2日(火)、早春といえどもまだ春遠いこの日、食と農のサポーター自主企画による「環境こだわり農産物見学会と食の水路探究会」をサポーター等、32名が集まって、開催した。

今回の催しは、豊かな農産地のフィールドには必ず水辺の管理人がいる。そんなことを確かめる「実感² 激² 場パートII」である。めざす劇(激)場は、食物の胎生する場、自然環境の再生と共生の壮大なドラマが展開される地、葭(ヨシ)の群生地の水辺と近江/八幡地域周辺である。

まず、最初の目的地は、和菓子メーカー「たねや」さんの「日牟禮茶屋店」。そこは「左義長まつり」で有名な日牟禮八幡宮の中にあり、木立に覆われた風情のある茶屋である。その二階をお借りして、「水質保全と葭の関係について」と「環境保全と食文化の融和について」の講義をうけた。

葭の話では水質浄化の役割や「よし」と「あし」の違いなど、「葭留」の竹田さんの自然を愛する純朴な人柄忍ばれる話に、参加者からは葭が群生することで、「琵琶湖の水が良くなるのがわかった。そのことがうれしい。」などぬくもりのある感想があった。

続いて「環境保全と食文化の融和について」話では「株式会社たねや エコロジー推進課」の額田さんより日本の伝統の味、和菓子を守り創ることは日本の自然を守ること、そんな信念のもと環境問題にも取り組まれているお話を聞くことができた。

午後からは、いよいよ水質の管理人のいる場、西の湖の葭群生地に向かった。バスが到着すると、空が一転して曇りだし、雨がぼつり、ぼつりと降り出した。「今まで晴れていたのにアンラッキー」と思いつつ、バスから降り、少し刈り取られてなぎ倒されている葭の群生地を見た。見学が終わる頃になると、いつしか雨もあがり空に虹がかけられ、ドラマティックな実感² 激² 場の舞台となった。

続いて、本日の最終目的地、環境こだわり農産物(きゅうり)の生産農家を訪ねた。ハウス内の青々と育つきゅうり苗のオンパレード中で、生産者から環境こだわり農産物の知識を一層深めることができた。

帰りのバスの中では、実行委員手作りの県産品振興のお土産抽選会なども行い、和気あいあいのムードの中、参加者からは琵琶湖の水質と「環境こだわり農産物」の関係がわかり大変良かったと異口同音の感想も出て、集いは成功のうちに終わることができた。今回、企画から実行まで時間がなく、スタッフ一同、不安を持ちながらのスタートだけに、無事終えてほっこり。

(食と農のサポーター実行委員)



料理教室および「一年を振り返って」

日時 3月10日(水) 場所 滋賀女子短期大学

滋賀県の伝統食に親しむことで、本当の食の豊かさについて考え、また一年の活動を通してサポーター同士で意見交換をした。環境こだわり農産物を始め、県産農産物の応援団として頑張りたいものです。



▲滋賀の食文化研究会の先生から指導を受けるサポーター